

青葉区明るい選挙推進作文コンクール

2025 入賞作品集



ぼく、「えら坊」！

平成9年12月25日生まれの青葉区の選挙マスコットキャラクター！区民の皆様からご応募いただいた519点のデザインの中から選ばれたんだ♪

青葉区民まつりなど各種イベントで、不正のない明るい選挙の推進や投票率の向上の呼びかけをしているよ。



☆明るい選挙推進協議会とは

- ① 不正のないきれいな選挙（寄附の禁止）
- ② 投票総参加の推進

を大きな柱として活動をしている団体で、全国の都道府県・市区町村に設置されています。

☆青葉区明るい選挙推進協議会とは

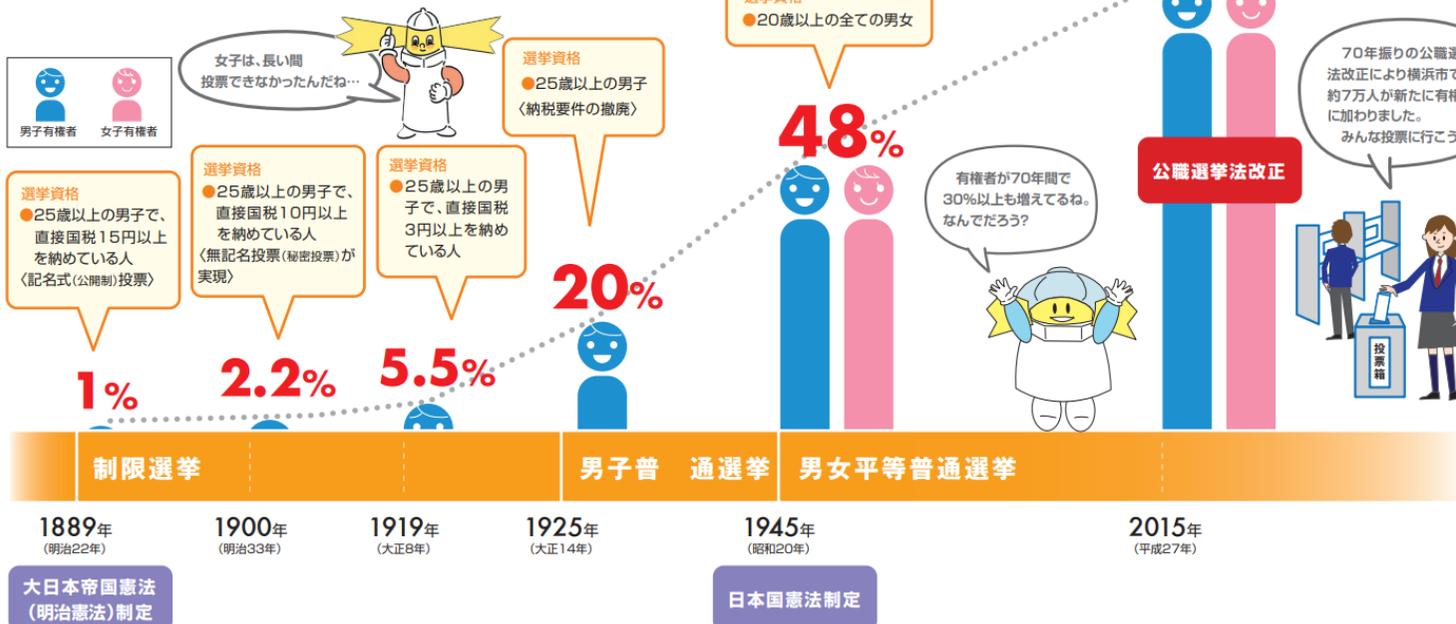
各種団体や自治会・町内会等から推薦された推進委員14名と推進員101名により構成され、選挙時の街頭啓発などの活動を行っています。



選挙に関するマメ知識

選挙権の歴史だよ。

当初は、人口の約1%しか投票できなかったんだね。



「選挙の3原則」



- 1 普通選挙
選挙権は、一定の年齢に達したすべての国民に与えられる
- 2 平等選挙
選挙人一人に一票。性別・財産・学歴などでの差別はない
- 3 秘密投票
誰が誰に投票したかが、わからないような方法で選挙がおこなわれる

青葉区明るい選挙推進作文コンクール二〇二五を終えて



青葉区明るい選挙推進作文コンクールは今回で第九回目の実施となりました。今年度は、参議院議員通常選挙や横浜市長選挙、令和八年には衆議院議員総選挙も執行され、青葉区のこと、選挙のことを考える機会がとて多かつたのではないかと思えます。夏に、テーマを「選挙について考える」として実施したところ、二四三作品もの応募がありました。

さて、私たち青葉区明るい選挙推進協議会は、推進員と事務局がメインとなって、区内中学校校長三名、青葉区選挙管理委員会委員長、青葉区長の皆様のご協力のもと、一つ一つの作品を読ませていただき、審査を行いました。

審査基準は次の通りです。

- 一 横浜や青葉区、地域に対する思いが感じられること。
- 二 選挙や政治・社会の仕組みについて正しく理解していること。
- 三 時事問題について興味を示し、適切に取り入れていること。
- 四 知識、事実を並べるだけでなく、独自の発想、意見が述べられていること。
- 五 文脈がしっかりしていて、論理が一貫していること。

結果、「青葉区明るい選挙推進協議会会長賞」、「青葉区選挙管理委員会委員長賞」、「青葉区長賞」が各一名、「えら坊賞(佳作)」八名、計十一名の入賞を決定いたしました。

どの作品も、「選挙」への思いや考えが良く述べられており、中学生の熱い思いが伝わってきます。中には、独創的で驚きのあるアイデアや意見、未来への期待感などが読み取れる作品も多く、選挙意識を高めたいという中学生の願いが感じ取れました。この作文コンクールを通じて感じたことを忘れずに、将来の選挙で貴重な一票を投じていただければ嬉しく思います。

今回寄せられた二四三作品の思いをしっかりと受け止め、今後も明るい選挙の啓発活動に尽力させていただきます。

ご協力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

青葉区明るい選挙推進作文コンクール二〇二五審査員長
青葉区明るい選挙推進協議会会長

岩谷 力

― 青葉区明るい選挙推進協議会 会長賞 ―

若い世代が立候補するために

鴨志田中学校

三年 森次 萌依

・・・ 1

― 青葉区選挙管理委員会 委員長賞 ―

一票の積み重ね

鴨志田中学校

三年 山田 遥

・・・ 3

― 青葉区長賞 ―

SNSから始まり、広がる選挙への関心

鴨志田中学校

三年 島原 未来

・・・ 5

― 佳作 えら坊賞 ―

より良い暮らしを実現するために

鴨志田中学校

三年 齋藤 夏芽

・・・ 7

自分の意思が未来をかえる

もえぎ野中学校

二年 池田 心逢

・・・ 8

未来につながる投票を

もえぎ野中学校

二年 高田 湊斗

・・・ 9

未来への一票、私たちの社会を明るくするために

山内中学校

一年 新井 ゆり

・・・ 10

未来の投票者になるために

谷本中学校

三年 池 琴帆

・・・ 11

まだ投票権をもたない私たちに今できること

谷本中学校

三年 小瀧 映太

・・・ 12

一票が育てる社会

谷本中学校

三年 富永 浦来

・・・ 13

未来を変える「選挙」へ

谷本中学校

三年 平林 弥真

・・・ 14

青葉区明るい選挙推進協議会会長賞



若い世代が立候補するために

鴨志田中学校 三年 森次 萌依

私は今回選挙に立候補できる被選挙権の年齢について考えてみました。その理由は7月に参議院選挙が行われテレビでも多くの時間を使って選挙特番が放映されました。その中で若い世代の政治への関心が下がっているという意見や報道が多かったですが、私はなぜ選挙は十八歳からなのに立候補できる被選挙権は二十五歳や三十歳なのかについて疑問に感じたからです。そこで、私は日本の被選挙権年齢と世界の違い、現在の被選挙権の課題、について調べてみました。

日本の選挙の始まりは1890年で当時被選挙権は三十歳以上、選挙権は二十五歳以上で、かつ直接国税を十五円以上納めた男性にしか与えられていませんでした。現在のような納税額に関係なく男女が平等に投票が行えるようになったのは1945年以降です。

現在の日本には、主に「国政選挙」「地方選挙」があります。国政選挙とは国の政治を動かす国会議員を決めるための選挙で、「衆議院議員総選挙」と「参議院通常選挙」の二種類です。どちらも選挙権は満十八歳以上ですが、立候補できる被選挙権は衆議院が満二十五歳以上、参議院が満三十歳以上です。地方選挙のうち、主な「地方議会議員選挙」「知事・市区町村長選挙」は、どちらも選挙権は満十八歳以上ですが、地方議会議員の被選挙は満二十五歳以上で、都道府県知事・市区町村長は満三十歳以上です。

一方世界では約三割の国で被選挙権が十八歳以上となっていて、経済協力開発機構（OECD）の加盟国に限ってみると過半数の国で被選挙権が十八歳以上です。イギリスでは、若者の政治参加を積極的に推進するための「Y

ong・Mayor」という制度があり、学校などを通じて選ばれた若者が、市長や市議会などに様々な助言を行う仕組みもあります。世界では十八歳から有権者として投票できるだけでなく、政治家を目指し、若いうちから立候補できることがあたりまえになっているのかもしれませんが。

ではなぜ日本の被選挙権にはギャップがあるのでしょうか。そこには三つの課題があると思います。一つ目は現在の教育は「有権者の視点」まででは出来ていないこと。二つ目は経済的課題で、衆議院選挙を例にとると供託金という資金が約三百万円必要になること。三つ目は学業との両立を図る場合、周囲の協力と理解が必要になることです。なので日本では検討はすすんでいるものの、選挙権と被選挙権の年齢にはギャップがあります。

私は政治家が一定の年齢の人に固定されず、様々な世代の人の意見やアイデアが反映されるように被選挙年齢は引き下げられると良いと思います。そのためにも私は公民の授業を通じて選挙や政治に関心を持ち、毎日の暮らしの中で解決したり改善したいことについて、学校の友達や先生、家族と対話してみることが大切なのではないかと思いました。

△講評▽

日本の選挙権と被選挙権の年齢差に疑問を持ち、世界の国々の様子を調べたことが素晴らしいです。その中で、イギリスなど多くの国では十八歳から被選挙権のあることを知り、若い世代が投票するだけでなく、立候補できるように被選挙権の年齢が引き下げられると良いと提案しています。そして自分が被選挙者として、選挙や政治に関心を持ちたいとしっかり述べています。

青葉区選挙管理委員会委員長賞



一票の積み重ね

鴨志田中学校 三年 山田 遥

「明日、演説会あるよね?」「誰に入れるか迷うね。」
中学校で生徒会役員選挙が近づくと、こんな言葉がよく
会話に出てくる。私は、中学校で選挙管理委員を務めてい
る。三年間活動してきて感じたのは、学校では多くの生徒
が選挙に関心を持っていないか、ということだ。
立候補者の演説には真剣に耳をかたむけているし、みん
なよく考えて投票する。それなのに、最近、ニュースで若
い人の選挙離れがさげばれているのをよく見る。学校の
選挙と実際の選挙で、関心に差がでるのはどうしてだろ
う。

選挙に行かない理由を調べてみると、若い人の多くは
「選挙を身近に感じない」「自分が投票しても政治が変わ
るとは思えない」「自分が投票しても政治が変わるとは思
えない」などの意見を挙げていた。

まず、「なぜ選挙が身近に感じないのか」ということに
ついて考えてみた。中学校では、目安箱などを通して伝え
た意見に丁寧に返事がくるし、生徒会の活動もよく目に
するので、自分が投票した結果を実感できる。生徒はみん
な、選挙を身近に感じているのではないだろうか。それに
比べ、日本の政治で国民の意見が取り入れられていると
実感することはあまりない。政治と国民を密に繋げ、もっ
と気軽に意見を伝えられる仕組みや、これまでの活動を
具体的に知ることができる場があったらいいと思う。
政治の「見える化」をすることで、投票することの意義を
より自分事として考えることができるのではないだろう
か。

次に、「自分が投票することで政治は変わるのか」とい

うことについて考えてみた。二十代の人たちの投票率は約三十%。およそ三人に二人は投票に行っていない。しかし、投票をしないということは自分の意見を何も言わないのと同じだ。「変わってほしい」と思うことがあるなら、まずは自分たちが動くべきだろう。たしかに、中学校の少ない人数で行われる生徒会役員選挙に比べ、一億人以上が投票権を持つ国の選挙は、一人の投票で結果が大きく変わるわけではない。しかし、たくさんの方の思いが集まって「国民の意見」となるのではないだろうか。たかが一票、されど一票。その一票の積み重ねでより良い社会へと変えていくことが出来るはずだ。「どうせ意味はない」と思うのではなく、選挙を通して自分の意見を伝えることが大切だろう。

私たちは直接国を変えていくことはできないけど、投票という形で思いを託す。投票するということは、自分の意見を示すということだ。一人ひとりが選挙を自分事として考え、動くことで、社会は良い方へ変わっていくはず。三年後、有権者になり、選挙を通して自分の思いを伝えられるようになるのを、楽しみに待っている。

△講評▽

身近な生徒会選挙をきっかけとして、若者の投票行動に思いを馳せ、投票に行かない理由を分析するとともに、それでも投票することが重要であるということを読んだ、素晴らしい作品です。多くの人がいる中で、自分の持つ一票の重みは、ともすると小さく感じるものだけれど、選挙を通じて自分の意見を伝える、その一票の積み重ねが大切であるとポジティブに考えられているところがとても良いと思います。三年後の投票をお待ちしております。

青葉区長賞



SNSから始まり、広がる選挙への関心

鴨志田中学校 三年 島原 未来

中学生である私たちが政治や選挙へ関心をもつことは、非常に大切だと考えています。というのも、7月の参議院選では消費税や給付金、医療・年金や子育て支援策、外国人政策などが選挙の争点となりました。これらは私たちの直近の日々の生活に大きな影響を与えます。

また、選挙の結果として選ばれた政党が、今後の日本の未来にどのような影響を与える主張をしているか、よく知っておかなければならないと思います。例えば憲法改正についての議論などには無関心ではられません。日本では簡単ではないといってもお隣の韓国では徴兵制がしかれていてBTSメンバーの兵役についてのニュースも目にしています。だから絶対におられないこととは言えないと思うので、どのような議論がなされて、どういう方向へ向かおうとしているのか知ろうとすることは大事だと思います。

私は普段ほとんどの情報をSNSから得ています。7月の選挙の際は、SNSでは外国人問題に関する議論が活発でした。SNSでは専門家や活動家の意見を簡単に知ることができるので自分が普段知らないような情報も得られます。実際、そうした情報をきっかけに選挙への関心が高まりました。

この作文を書くにあたり、もっと選挙について知りたいたいと思い私は「投票マツチング」というサイトを試してみました。このサイトではいくつかの質問に答えると自分の考えに近い政党が表示される仕組みでした。結果として関心をもっていなかった政党が出て驚きましたが、その政党の考え方や主張を調べてみると確かに自分の考え

方と共通する部分が多いことが分かりました。

その後、家に届いていた選挙の広報誌を読んで自分が一番良いと思った候補者は投票マツチングで示された政党と一致していて納得すると同時に、これまで見ていたSNSで得ていた情報には偏りがあると気づきました。SNSはフィルターバブルが起き自分が興味を持つ情報ばかりが流れてきます。これでは投票に必要な幅広い知識は得られません。私は、今後はネットニュースや新聞、テレビなどいろいろな角度から情報を集め、異なる立場の意見や自分の関心のある分野以外の情報を知ることが必要だと考えるようになりました。

三年後、私は十八歳になり投票権を得ます。以前は「投票に行かないなんてありえない」と単純に思っていました。実際には知識と情報収集が必要だと分かりました。これからはスマホを触る時間を減らし、ニュースを見たり、意見を比較したりして、自分の考えを深めたいです。そして、選挙は未来を決める重要な機会であるからこそ、しっかりと準備して臨み、結果を受け止めて次の行動につなげていきたいです。政治に関心を持ち、選挙に参加することこそが、よりよい日本をつくる第一歩だと信じています。

△ 講評 △

中学生にとって身近な情報収集・交換ツールであるSNSの選挙での利用が解禁されてから十年以上が経過する中で、投票先を考える為にSNSを活用する利便性と危うさの両面を浮き彫りにした興味深い作品でした。また、SNSだけでなく様々な媒体から情報収集する必要性の訴えもよい視点だと思えます。これからも社会や政治に関心を持ち続け、多面的に情報を得ながら選挙権をはじめ積極的な社会参画を期待しています。

よりよい暮らしを実現するために

鴨志田中学校 三年 齋藤 夏芽

私は、選挙権を持っている国民は、進んで投票すべきだと思います。現在の日本で選挙権が与えられる国民は、十八歳以上の全ての男女ですが、青葉区の投票率は約六十パーセントです。つまり、五人のうち、二人は投票していないということになります。五人に二人という私のクラスは約三十人なので、三年後、約十二人が投票に行っていないということになります。そう考えると投票をしていない人は多く感じます。では、なぜ、投票に行かない人がこんなにもいるのでしょうか。私が考える投票に行かない理由は、選挙の日は一日で時間は午前七時から午後八時までなので、学校や仕事で行けない、投票に行くのがめんどろ、誰に投票したらいいのかわからないなどがあると思います。私の兄は今年十八歳になり、選挙権を持ちました。なので、私は兄と一緒に新聞に入っていた横浜市長選の選挙広報を見ました。そこには、それぞれの立候補者の名前、経歴、自分が市長になったときの具体的な政策や意気込みなどが書いてありました。選挙広報を見るのははじめてでしたが、自分が思う横浜市の現状や課題、自分が市長政治に求めることを実現してくれそうな候補者、自分と考えや価値観が近い候補者を選べると思いました。

私は中学校でもあたたかくて、おいしい給食を食べたいので、中学校給食を実現してくれる候補者をさがしてみました。このように、たった一つの希望でも自分が市長になってほしい候補者はみつかると思います。自分の希望に合った候補者に市民全員が投票をすれば、より多くの市民がこの横浜市でよりよい暮らしを実現できると思います。投票に行かない人が多くいると、政治はだんだんと偏っていったてしまいます。「自分一人が投票したところで政治は何も変わらない」、「どうせまた、あの人が当選する」、「たった一票でだけ」などと思わず、自分が横浜市民であること、社会の一票であることを自覚して、投票に行くことが大切だと思います。その一票は横浜市の未来、今後の政治を変える大切な一票です。市民の意見が直接反映される選挙は横浜市、政治をよりよいものに変えるチャンスです。また、投票に行くことは、自分が社会の一員であることを自覚するチャンスでもあります。私は思います。横浜市、政治をよりよいものにするためには、市民全員の意見が必要です。票が多ければ多いほど、より公正な政治となるはずです。私は、三年後、十八歳になり、選挙権を持ったら、自分が社会の一員となって選挙に参加できることを喜び、よりよい暮らしを実現するために、大切な一票を入れようと思います。

自分の意思が未来をかえる

もえぎ野中学校 二年 池田 心逢

私は今、十三歳。あと五年もすれば成人を迎えます。成人するということは、いろいろなことができます。しかし、一つ一つの行動に責任を持たなければいけません。その一つに、「選挙権」というものがあります。私は十八歳になったら積極的に政治に参加し、自分たちの明るい未来のために、何ができるのかをしっかりと考え、自分の意見をしっかりと持って行動したいと思います。そのためには三つのことを意識していきたいと思います。

一つ目は、「選挙について知る」ということです。選挙とは、より良い暮らしのためにたくさんの方が話し合って、折り合いをつけながら政治を行う代表者を決めるということです。つまり、私たちの願いや意見を実現してくれる人を選ぶということなのです。言い換えれば、その人たちに私の考えや思いを一票に込め、託すということになります。立候補者の思いや、やりたいことをしっかりと理解し、賛同できるのか、できないかをしっかりと見極めることが大切です。

二つ目は、「選挙について考える」です。私の身近なところにも選挙はありません。それは「生徒会本部役員選挙」です。立候補者のみんなに共通して言えることは、より良い学校にするために、一生懸命考えて立候補していたということだと思います。生徒会本部役員選挙に向けて立候補者は抱負を書いたり、応援責任者からの推薦理由をもらったりして、私たちに真剣に自分の考えを伝えていました。ポスターや紙だけではなく、実際に立候補者の考えを聞くことで、熱意が伝わってきました。真剣だからこそ、決める側も真剣に投票しなければいけないと考えました。

三つ目は、「選挙に興味を持つ」です。今年の八月に行われた「横浜市長選挙」の投票率は、四十一・六四%と、決して高い数字ではありませんでした。特に若者の投票率が低くなっていることが昨今の問題になっています。今回の市長選挙は、「にじさんじ」を啓発キャラクターにして、若者にも選挙に興味を持ってもらう取組がありました。私も「にじさんじ」のキャラクターが好きなので、駅や公共施設に掲示されているポスターを見て、つい立ち止まってしまいました。

このように、選挙に興味を持ち、自分たちの手で社会をより明るくするんだという意思を持つことで、私たちの暮らしは必ず豊かに変わります。そのためには一人一人が、選挙を理解し、選挙について真剣に考え、興味を持つこと。そうすれば、私たちの未来は明るくなります。だからこそ、私は、未来の自分たちのために、自分の意思をしっかりと行動できる人になります。一人一人が選挙に真剣に向き合い、立候補者の思いを真剣に聞くことで投票率は必ず上がります。そして、みんながよりよく明るい生活、みんなが笑顔で幸せな生活ができるように、社会を変える自分の意思をしっかりと社会に反映させていきたいと思っています。

未来につながる投票を

もえぎ野中学校 二年 高田 湊斗

今年の夏、僕は初めて選挙の投票所に行きました。中学生の僕と一緒にいっても良い場所なのか母に尋ねると。

「5年後には投票ができるようになるんだよ。どんな所か見ておくと良いよ。」
と言われ楽しみにして向かいました。しかし、投票所にいたのは高齢の方ばかりで、若い人の姿が見当たらず想像していた雰囲気とはまるで違いました。その後、参院選の投票率が十八年ぶりに五十パーセント台後半に達したこと、四十九歳以下の若者世代の投票率の低さが、まだまだ問題となっているというニュースを目にしました。僕は投票率の低さにとても驚きました。何故なら、僕は中学校で選挙管理委員会に入り、生徒会役員の選出に関わってきたからです。生徒一人一人に投票用紙が配られ全校生徒で投票を行うので開票の作業は大変です。けれど、投票用紙には学校生活を寄りよくするにはどの人に任せたら良いのだろうかと考えて選ばれた人の名前が書かれています。この一票がとても大事なのだと思いながら作業をしました。投票用紙からは迷いながらも真剣に選んでいる様子も感じられました。そうして全校生徒から選ばれた役員の生徒たちはとても頼もしい存在です。僕は全校生徒で行う選挙で選ばれたということに、とても意味があると思います。もし、一部の生徒や先生方しか投票をしなかったらとしたら、まったく違う結果になった可能性もあると考えたからです。

そういった経験から、日本の若者世代の投票率を上げる必要があると考えました。そうすれば、もっと幅広い世代に向けた良い政策が考えられて、暮らしやすい国に近づいていくのではないかと思います。大人も経験してきた学校での選挙の時のように、誰を選べばよくなるのか、一人一人がまず関心を持って考えることがとても大切なのだと思います。どうせ自分の一票では何も変わらないんだと考える人も多いと思います。そうして関心を持つことさえ止めてしまったら、自分たちの希望とする未来はもっと遠くなる一方なのだと思います。

最近、僕たち世代が知っているような動画の配信者が選挙に行くことと動画の中で言っており、その動画のコメント欄では、自分も選挙に行くことにしたという投稿も見つけました。また、投票に行った若者のうち六割の人が、SNSや動画サイトの配信を重視したという結果が出ていますと知りました。このように情報が身近に感じられると人は考えるようになるのだと思います。どんなことがきっかけになるかは人それぞれ違うとは思いますが、大事なことは、まずは自分から興味を持って行動をする。そうすることで周りの同世代の人も動き出す。そうして若者が投票をした事実を少しでも増やしていくことで、日本が良い方向に向かっていくのではないかと考えました。

未来への一票、私たちの社会を明るくするために。

山内中学校 一年 新井 ゆり

この前の横浜市長選挙の後、お父さんとお母さんが違う候補者に投票したと知って、私はとても驚きました。夫婦なのに意見が違うなんて、と最初は思いましたがよくよく考えてみれば当たり前前の事だと気づきました。

母は主婦として日々の暮らしを良くしてくれる政策に、会社で働く父は、社会全体が良くなるような政策に。それぞれの立場で大切にしたい未来が違うのは当然です。

そして、私です。私にはまだ投票する権利はありませんが、今回の選挙で争点の一つだった中学校の給食問題は、まさに私の生活に関係する話です。

そこで私は、新しい選挙の仕組みとして、「家族票」という制度を提案したいです。これは、家族みんなで政治について話し合い、まとまった意見を一つの票として投じる票です。そうすれば、私たち子どもの未来を考える良い機会になるはずです。何より、家族で話し合う事で、選挙がもっと、身近で大切なものだと思います。もちろん、この「家族票」には、考えるべき課題もいくつかあります。例えば、「家族」の定義をどうするのか。おじいちゃんおばあちゃんと一緒に暮らしている家もあります。また、家族でどうしても意見がまとまらなかつたら、どうやって一票を決めるかというルールも必要です。もしかしたら、親が子どもの意見を聞き入れず、無理やり意見をまとめてしまう、なんて問題も起こるかもしれません。

しかし、こうした課題を考えること自体が民主主義の第一歩だと思います。どうすればみんなが納得するルールを作れるか、家族で話し合う。それこそが、未来の有権者である私たちが今から出来る、大切な訓練になるのではないのでしょうか。

「選挙」と聞くと、皆さんはどんなイメージを持ちますか。「なんだか難しそう」「大人の話で、自分にはまだ関係ないかな。」少し前まで、私もそう思っていました。でも、選挙は私たちの毎日の生活に深く関わっている、とても大切なものなのです。

例えば、私たちが毎日食べている給食の内容や、よく遊びに行く公園にバスケットボールが設置されるか、買う時にかかる消費税なども、全て選挙で選ばれた人たちが決めていきます。

では、よく耳にする「明るい選挙」とは、一体どんな選挙なのでしょうか。それは、すべての人の考えを自由に表明でき、その一票が正しく、大切に扱われる選挙です。例えば、お金で票を買ったり、嘘の情報を流したりする不正行為は、選挙を暗くしてしまいます。候補者の人たちが政策をわかりやすく伝え、たくさんの人が「自分たちの代表を選ぶんだ」という意識を持って参加することが大切だと思います。数年後、私たちは選挙権を持ちます。選挙の事をもっと知り、よりよい未来を作っていきたいです。

未来の投票者になるために

谷本中学校 三年 池 琴帆

選挙の投票は、未来への地図に自分の道しるべを刻む行為だと考えます。たった一つの「はい」や「いいえ」が、私たちの学校の環境、通学路の安全、放課後に使える施設、そして将来の働き方や社会のルールを左右します。中学生の私にはまだ選挙権がありませんが、選挙がどうして大切かを知ることが、他人任せにしない大人への第一歩だと思います。

まず、投票は「声を届ける」手段です。政治は遠くにあるものに見えますが、街角のゴミ箱一つ、図書館の閉館時間一つも政策の結果です。自分や家族、友達の生活に関わる問題に対して「誰に」「何をしてほしいか」を意思表示できるのが選挙であることを忘れてはいけないと思います。

しかし、現実には若者の投票率が低いという大きな課題があります。「若者は選挙に興味がない」「自分には関係ない」と感じる人も多いですが、そうした態度が続くと、自分たちの声が届きずらく政治に反映されにくくなってしまいます。だからこそ、「若者は選挙に行かない」と嘆くだけではなく、私たち自身もつと政治、そして自分達の未来のために積極的に関わっていくことができるのではないかなと考えました。

次に、投票は未来を選ぶ力でもあります。教育や医療、環境政策は長い時間で結果が現れるため、若い世代の声が反映されにくいのです。だからこそ、今の大人たちがどの方向を選ぶかが、私たちの将来を決めます。若者が関心を持ち続け、家族や友達と話し合うことは、未来への投票行動を育てる大切な準備です。

また、選挙参加は社会への責任と誇りにつながります。投票率が低いと、一部の声だけが強くなってしまいます。多様な意見が反映されることで、誰もが安心して暮らせる社会が作られます。私たちが大人になったときに「自分たちの暮らしを自分たちで守れる社会だ」と胸を張って言えるように、今から関心を育てておくべきだと考えます。

最後に、中学生としてできる具体的な行動を提案します。家庭で選挙の話をし、親や祖父母の意志決定を手伝うこと。学校の授業で情報を比較する習慣を身につけること。SNSでは感情的な拡散を避け、まずは事実を調べてから発信することなどが私たちが出来ることだと考えます。

選挙は決して遠い話ではありません。私たちの小さな行動が積み重なって、未来の大きな変化につながります。今この瞬間から「知る」「話す」「動く」を始めることが大切なのです。そうすればきっと後悔のない未来が待っているはずですよ。

まだ投票権をもたない私達に今できること

谷本中学校 三年 小瀧 映太

私はまだ投票できない。だからできるようになったらしっかりと投票しよう。私はそう思っていました。しかし、いざ18歳になった時に、きちんと自分の考えを持って投票できるのでしょうか。

ここ数年、若者の投票率の低下が問題視されてきました。2024年の衆議院選挙でも10代から30代までの投票率は50%を下回っています。このような状況の中で、どうすれば若者の投票率を上げることができるのか、自分なりに考えてみました。

ある調査によると、若者の投票しない理由の第1位は、「なんとなく難しそうだから」だそうです。確かに、どんな政党がどんな主張をし、それが自分たちの生活にどう影響するのかなど分からないことがたくさんあります。どうしたらもっと政治が身近になるだろうと考えると、やはり「政治への市民参加や投票におけるデジタル化」が1番効果が大きいのでは、と感じます。

たとえば、若者の多くが使っているスマートフォンで、政党や政治について簡単に知ったり考えることができるの良いと思います。様々な政治的な論点などについて質問に答えていくと、自分の考えに近い政党が見つけれられるような仕組みがあると良いかもしれません。

さらに、選挙よりも気軽に声を届けられるアンケートのようなものがあると良いと思います。たとえば、「現金をもらうことと、税金を下げることを、どちらが良いか」などといったことです。そういった一つのテーマについて考え、意見を出すことで、政治全体への興味も高まり、難しそうと感じる要素も減らすことができるかもしれません。投票権の無い僕達にも、そのような意見を出せる機会があったら良いなと思います。

一方、投票に行きたくても行けない方も多いと思います。投票をデジタル化することによって、障害を持った方々やご高齢の方も、もっと政治に参加しやすくなるのではないのでしょうか。

今はまだそのような仕組みはないと思いますが、「まだ選挙権がないから何もしなくてもいいや」と思うのではなく、自分の行動が自分の生活を変えるのだという自覚を持ち、将来選挙権を持った時により良い選択ができるよう世の中に目を向ける必要があると感じました。一人一人が将来のことを考え、自主性を持って、明るい未来に向かって行けたら良いなと思います。

あと数年で、私も有権者になる。ニュースで「若者の投票率が低い」と耳にするたび、「自分はどうするだろう」と考えるようになった。投票所で一票を投じる姿を思い浮かべると、少し緊張する。でも同時に、「それは自分が未来に向けて小さな種をまく瞬間なのかもしれない」と思えてくる。

もし、選挙という仕組みがなかったらどうだろう。学校で生徒会長が誰の意見も聞かずに決まったら、不満や疑問があっても変えることができない。国でも同じだ。代表を選ぶ道が閉ざされれば、国民の声は届かない。それは畑に種をまくことなく、収穫だけを待つようなもので、やがて土地はやせ、未来は実らなくなるのだろう。

私は投票とは未来への種まきだと考える。一票は小さくても、それは「こういう社会になってほしい」という思いを込めた種だ。芽が出るまでには時間がかかり、ときにはすぐに結果が見えないこともある。けれど、水をやり、日を当て、季節を重ねれば、やがてその種は育ち、実を結ぶ。投票も同じで、継続して参加することで、少しずつ社会は形を変えていく。

今は投票所で紙に書いて投票するのが一般的だが、日本で最初の衆議院議員総選挙が行われたのは一八九六年。当時は二十五歳以上の男性高額納税者などごく一部にしか投票できず、今のように十八歳以上の誰もが参加できるようになったのは、戦後一九四五年の女性参政権の実現が大きな転機となった。長い年月をかけて「一票の権利」は広がり、多くの人の努力と願いが今の制度を形作ってきた。もし将来、スマホで投票できるようになったらどうだろう。通学途中や家でも投票できれば、若い世代の参加は増えるかもしれない。しかし便利さの裏には、不正やなりすましの危険もある。投票方法が変わっても、一票の重さや責任は変わらない。むしろ、手軽になるほど、「どんな未来を望むのか」を自分で深く考える必要がある。

選挙は、過去から守り継がれてきた畑のようなものだ。そこに種をまくことは、与えられた権利であり未来を育てる責任でもある。一度きりではなく、何度も種をまくことで社会は少しずつ形を変えていく。芽が出ない年もあるかもしれない。それでも世話を続ければ、やがて実りの季節が訪れる。

十八歳になったら、私はためらわず投票に行きたい。それは未来という畑に自分の願いを託す一粒の種をまく行為だからだ。そしてその芽が、いつか誰かの笑顔や安心となって実ることを信じている。

僕は選挙が行われるたびに、家族と選挙に行っている。選挙権のない、投票する権利のない「十五歳の僕」が、だ。これは物心がつく前からの恒例の出来事と言っても過言ではない。だから、普段見慣れた街に、立候補者のポスターが貼られるようになる、いつからか漠然と投票日が気になるようになっていく。

「選挙」とは、と考えられるようになったのは最近のことである。幼い頃は選挙が近づくと、街中を選挙カーが走り、公約や投票を大きな音で訴えたり、投票日の夜にはどのテレビ番組も選挙の投票結果が中継されていることに疑問を抱いたものだった。しかし、それらは僕たちの「今」や、「未来」のためにとても重要なことが行われているのだと分かる。

低い投票率は政治への関心、期待が薄いのではないかと、中学生ながらも思う。そして危機感を覚える。

年代別の投票率を調べた。令和四年の参議院議員通常選挙の投票率を参考にすると、投票の高い順に六十代、五十代、七十代以上、四十代、三十代、十代、二十代という結果になっている。少子化も進み、全人口の中でも少ない割合でこの結果は、いかに「若者が投票所に現れない」ということである。こうした状況が続くことによつて、政治家は投票に来てくれる世代、政治に関心がある世代を優先した政治を行う現象が起こり、その結果、若者に向けた政策が実現しにくくなったり、実現するのに時間を要する可能性が出てくる。現状においても少子化に歯止めもかからず、その背景が政治が全てではないにしろ、子育てもしたいと思える世の中ではないことが想像できる。子どもが生まれにくいことは生まれてくる子どもたちが、多くの高齢者の生活を支えることは容易に分かる。どうしたらいいのか。未来のある若者こそがより政治への関心を持ち、自分たちだけでなくその家族がどういう未来を生きてほしいのかを想像し、十年後、二十年後、それよりも先の未来を考えることが重要だと思う。

最近では自治体や地域が投票率上昇に向けて様々な取り組みをしている。投票証明書を人気作家とコラボして作成されていたり、それを持って店舗に行く、割引が受けられたりと、ひとつのイベントとして取り上げられていることもある。

「選挙に行くなんて」、「政治なんて」と恥ずかしさのようなものを抱くひともいるかもしれない。選挙に参加する入口が投票証明書取得が理由でもいい、選挙に興味をもつことが未来に向けた一歩であると思う。

僕は胸を張って、大きな声で「こんな未来を生きてみたい」と共有できる仲間を広げ、積極的に政治に参加できる「選挙」に、選挙権をもって参加できる日を楽しみに待ちたい。



青葉区明るい選挙推進作文コンクール2025入賞作品集

<発行>

令和8年2月

青葉区明るい選挙推進協議会／青葉区選挙管理委員会／青葉区役所

〒225-0024

横浜市青葉区市ケ尾町31番地4

TEL 045-978-2205~7

FAX 045-978-2410

☆入賞作品は、青葉区明るい選挙推進協議会のホームページでも公開しています。

青葉区明るい選挙推進協議会

検索

主催 青葉区明るい選挙推進協議会・青葉区選挙管理委員会・青葉区役所

後援 横浜市教育委員会